

県民健康調査における論点整理（座長私案）

1 総論

- ☆ 30年継続するということではじめられた健康調査ではあるが、適宜評価と見直しが必要ではないか
- ☆ 見直しに当たっては、調査開始前後の経緯やその後の対応について一定の振り返りが求められるのではないか

(1)調査の目的について

- ・ 低線量被ばくの影響が否定できない現状では、県民健康調査の枠組みで県民の健康状態を様々な角度から観察を続け、長期にわたる県民の健康管理（いわば直接的な健康影響）に資するという現在の考え方だけで良いか
- ・ 避難や心理的ストレスに由来する（いわば間接的な）健康影響を最小限にするために対策に資するよう、健康の見守りや健康づくりに積極的に活用することを明確にするべきではないか

(2)調査の正当性について

- ・ それぞれの調査の回答率についてどう考えるか（各項目で議論）
- ・ 調査対象者の範囲については現在のままで良いか（各項目で議論）
- ・ 調査に対する県民意識の低下を避けるよう、新たな対策が必要ではないか

(3)調査結果の管理について

- ・ データの管理の方法や場所については、現在のままでよいか
- ・ 今後、長期間の管理に適し活用可能なものとするべきではないか
- ・ その際、データ管理や活用のルールについて見直しは必要か

(4)調査結果の活用について

- ・ 調査結果の公表の方法や時期について、今後どうするか
- ・ 市町村保健事業等個人の健康管理の取り組みとの連携に活用できないか
- ・ 放射線影響についての継続的なリスクミに活用すべきではないか
- ・ 本人へのフィードバックは、現在の方法だけでよいか
- ・ 調査結果の二次利用についてどう整理するか（調査結果の管理との連動）

(5)県民健康調査の各調査間、あるいは他の調査等との連携について

- ・ 基本調査の外部被ばく線量と他の調査との関係を明らかにする必要があるのではないか
- ・ 内部被ばくの推計と調査結果との関係を明らかにする取り組みを加速させる必要があるのではないか

- ・ 一定量以上の外部被ばくが推定される県民への対応は必要か
- ・ がん登録の精緻化を加速させ、心配される白血病以外のがんの発症率についても検討する必要があるのではないか

#### (6)委員会等について

- ・ 委員会の構成や、運営、部会の在り方などを見直す必要があるか

## 2 基本調査

### (1)回答率の問題について

- ・ 今後、全体の目標値を持ってさらに取り組むことが合理的であるのか
- ・ 地域毎の違いをどう考えるべきか、あるいは容認すべきか
- ・ 特に回答率の向上を目指すべき年齢層や地域を特定してはどうか

### (2)対象とする期間について

- ・ 発災後現在までの累積線量を考慮する必要があるのではないか
- ・ 一定量以上の外部被ばくが推定される県民への対応は必要か（既出）

## 3 甲状腺検査

（既に出した論点をベースに、部会で検討）

## 4 健康診査

- ・ 検査体制、検査対象、検査項目はこのままでよいか
- ・ 既存検診との関係を更に整理する必要があるのではないか
- ・ 個人の健康づくりにもっと活用できるようにすべきではないか

## 5 こころの健康度・生活習慣に関する調査

- ・ 調査体制、調査対象、調査方法はこのままでよいか
- ・ 支援が必要な県民への支援体制についての見直しが必要か

## 6 妊産婦に関する調査

- ・ 回答率の低下をどのように捉えるか（但し、対象者は毎年度異なる調査）
- ・ 要支援の妊産婦への対応を今後どうするのか
- ・ 先天異常（奇形）発生率については、今後どのように取り扱うべきか
- ・ 安心して産み育てられる環境の整備にどう役立てていくべきか